Vol. 28 No 7887 Thursday, April, 20 1933 TAIRIKU NIPPO 昭和八年 四月二十日（木曜日）第七千八百八十七號

大陸日報

TAIRIKU NIPPO
(THE CONTINENTAL DAILY NEWS)
PUBLISHED BY,
TAIRIKU NIPPO SHA LTD.
813 & 815 CORDOVA ST. E.
VANCOUVER, B. C.

本紙定價（郵送）六ヶ月 四弗貳拾五仙
廣告單價 八弗貳拾五仙
發行所 株式會社 大陸日報社
社長 山崎寧
晩香坡市東カドバ街二一五
電話 バンクーバー 四六六九アール

紙はり

東カドバ街二六一 防暴筋間
（眼鏡書林ベー バーハンガー）小林
電話 バンクーバー 四六六九アール

◇重要ナル◇

日本の經濟悲觀（上）

礒波生

日本は將何うなるか、滿洲國の出來や來國の關係で日本の經濟生活は何うなるか、即ち國運如何にかゝはる大問題であつて、各方面にいろ〳〵の議論もあり、又書かれてもあるが、茲まるに議論や觀測は何處まで行つても議論に過ぎず、觀に過ぎないと思ふ。その根據に就いて日本の世界の情勢、その動搖に伴はれてゐる日本の今後は到底多くの議論の通りに行かず、多くの觀測は當らないであらう。

◇

眼前の追ひ出しまでは一致の行動を執つてゐた英佛兩國の間には、早くも戰後の分け前について關する聲を聞いてゐる。その國內事情の飛ばつちりが滿洲國を挾んで日本に來る情勢は到底避けないばかりでなく、今後益々激甚を加へるであらう。

◇

それがなたすく國際聯盟に反映して聯盟の日本攻めの口實にもなつて來よう。人或は來國の恐慌は國內的に餘りにも多事であつて國際聯盟の呼びに應じて東洋のことゝ、日本攻めのお先棒を擔ぐ餘裕はないと觀するが、それは餘りにも自己の實情を夢見して、自らを慰める謎ではあるまいか。況んや來國が日本に對する——東洋に對する認識を異らしめて、聯盟國の妄動を抑止しないまでも、有效的に妄動に勞力しないとしても、日本に對する經濟的壓迫は徐々に歩一歩加はり來ることを覺悟しなければならない。

◇

殊に來國の恐慌そのものが、日本に與ふる經濟的打擊だけでも容易ならざるものであらう。生糸は何うなるか、之れ一つでも日本の經濟生活に對して大問題であるが、來國の經濟政策の動向如何によつては、日本の對來貿易は絶望的地に陷るかも知れない。（續く）

オランダとの新條約調印迄の經過

大正十四年に先方から希望し
足掛け九年目に締結

東京特電

日蘭條約は十九日（一ダ）に於て調印を了したが、外務省は右條約調印經緯に關し二十日次の如く發表した——大正十四年中オランダ側從來の好意ある努力により順調に進捗し、十九日ランダ國外務大臣ブロックランドと加藤及び幣原全權との間に署名調印したり、本條約は三箇條より成り、其の內容は次の如し——（一）本條約は調印の日より滿五箇年間效力を有すること（二）兩國の交際に關し、其の國交を一層敦厚ならしむる爲め兩國は互に最惠國たるの地位を與へ且つ兩國の臣民の待遇に關しては內國人と同一の待遇を與へ（三）兩國間に發生する一切の紛爭にして外交手段を盡すも解決せざるものを常設調停委員會に之が解決を附託すること（四）右の外附屬議定書の規定する所は本條約と同一の效力を有すること（五）本條約は批准書交換の日より一箇月後一日より效力を發生し五ヶ月間有效

日滿交通動脈

多年問題の北滿、北鮮間鐵道が
いよ〳〵全線開通

（附記）北滿と北鮮とを結びつける吉會線（吉林、會寧間）は日本が滿洲國の好意で敷設權を得て面かも滿鐵良政權の好意で敷設が出來、多年問題となつてゐたもので、今回滿洲及び北支那方面の貨物輸送に一大革命を與へるものである

旅順に要港部の再開

關東州沿岸を防衛の爲め

昨日報道した通り海軍では今回滿洲及び北支那方面の貨物輸送に一大革命を與へるものである

日軍の爆彈

北支那の外國人教會を破壞
日本側で損害を辨償

北平特電（合同通信）——萬里の長城の近傍、密雲の米國メソヂスト教會は日本爆撃機の爲め破壞された事を十九日北支那メソヂスト教會聯盟事務ブラウンは發表した、何應欽は同時に米人宣教師一名が殺されたと云つてゐるが此方は事實でないらしいが同ミッションは支那人の牧師が居たもので、十二機の日本飛行隊が飛來し爆彈八十個を密集に投下しミッションにも命中して殆んど全損の有樣だと教會側では云つてゐる、それに對し日本公使館では「若し教會に支那兵が隱れて居なかつたのなら損害を拂ふ」と言つて居り、日本では既にフランス宣教師のキャソリック教會へ六百弗、山洲舖のメソヂスト教會へ百弗拂つてゐる

滿洲國へ人形の贈物

九歳の松平トモ子孃が使節

（第二報）拓務省では滿洲移民の計畫をしてゐるが昨日小磯國東亞參謀長、永井拓相、堤次官と協議の上具體化するが拓務省側の大體の方針は次の通り——（一）滿洲移民は農工業者のみでなく林業、產金の從業者も作る事（二）自由移民の奬勵には拓務、滿鐵、東拓が一體となり協力し其經費は滿鐵と東拓と政府で考慮する事（三）東拓よりの出資金で必要の際は移民會社を設立する、差當りは東亞勸業より一部融通する

滿洲移民會社

新設して滿洲を開發

（第一報）滿洲の資源開發移民問題に就ては拓務省で具體案を練りつゝあるが、小磯關東軍參謀長は十九日永井拓相を拓務省に訪問し、最近に於ける開發時代の經過竝に各產業施設の狀況に就て詳細報告を爲すと共に、產業開發移民政策に關する關東軍の意見を說明後、堤政務次官、木村參與官と會見、特に高山東拓總裁の參會を求め拓務省統制會社案の說明を聽取、種々懇談を遂げたが（二）東拓、滿鐵を中心とする獨立の移民會社の設立（二）產業開發會社を設立して移民事業を兼營せしめる等に就ては適時會合協議する事とした、是によつて滿洲移民會社の設立も小磯參謀長の滯京中に具體案を得るものと見られる、尙は來る二十六日更に會合を催す筈である

日本軍の爆彈

北支那の外國人教會を破壞
日本側で損害を辨償

北平特電（合同通信）——萬里の長城の近傍、密雲の米國メソヂスト教會は日本爆撃機の爲め破壞された事を十九日北支那メソヂスト教會聯盟事務ブラウンは發表した、何應欽は同時に米人宣教師一名が殺されたと云つてゐるが此方は事實でないらしいが同ミッションは支那人の牧師が居たもので、十二機の日本飛行隊が飛來し爆彈八十個を密集に投下しミッションにも命中して殆んど全損の有樣だと教會側では云つてゐる、それに對し日本公使館では「若し教會に支那兵が隱れて居なかつたのなら損害を拂ふ」と言つて居り、日本では既にフランス宣教師のキャソリック教會へ六百弗、山洲舖のメソヂスト教會へ百弗拂つてゐる

加奈陀サン生命保險會社
一九三一年度末に於ける
總保險契約額（純）
一九三一年度一ヶ年間の
新保險契約額
參拾億餘弗
五億餘弗
一九三一年四月一日以後加入の分には
滿五ヶ年目に特別配當を支拂ます
日本各地に 支店 及び 代理店 あり
300 E. Cordova St., Vancouver, B.C.
電話 バンクーバー 五五九九 及 四六九七アール
代理店 中野保險
主任 中野庄輔
伊澤之一 英俊
古林一雄 幹一
松林 末記
小林兵頭 眞二
岡田加藤 熊三郎 太郎
渡邊順次郎
大橋文次郎
橫濱成宗
島

SUN LIFE OF CANADA

預金はローヤルで
當行が加奈陀に於て最大最強の銀行である事が既に皆樣の御承知の事と存じます、ビーシー州內に於ても五十餘の支店がありますから何れの地方の方々は手紙の便で取引して居られます
外國爲替賣買 世界の各大都市には支店或は代理店を置き全世界に亘つて活動して居ります殊に日本人諸君の爲めには日本の大銀行と取引關係を結び送金の迅速、確實、其他相場に就ては細心の注意を拂つて居ります
何卒 ローヤル銀行 を御利用下さい
メーン及ベスランダス街角
電話 シーモア四九〇六

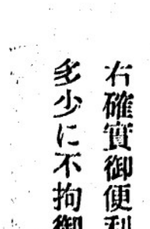
日本向送金手形、鄕里送金は左記のローヤル銀行支店にて御取次致しますから積々御利用下さい
晩香坡イーストエンド、スタウストン、ニューウエストミンスター、マーポール、ラドナーカムバランド、ヴイクトリア等

シアトル住友銀行
定期預金 六ヶ月以上年二分五厘
特別定期（十ヶ年書替不要）年三分五厘
貯蓄預金 年三分
月掛貯金 年四分弱
日本向定期爲替手形六ヶ月以上年四分二厘

◉資本金 壹億 圓
◉積立金 壹億壹千九百七十五万圓
橫濱正金銀行
シアトル支店

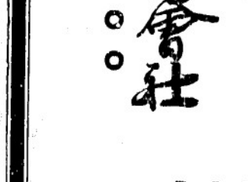
○鄕里送金—無手數料ニテ日本內地、滿鮮、其他ヘ迅速
○確實ニ送金致シマス
○普通送金—送金手形或ハ電信爲替ハ世界各地向御取組申シマス
○圓貨定期爲替手形—利息、六ヶ月以上年四分二厘
○米貨定期預金—弊行桑港支店ニ御取次致シマス利息ハ六ヶ月以上年三分五厘デ弊店御取次ノ日ヨリ御附シマス
定期預金證書又ハ定期爲替手形ヲ擔保トシテ貸出金ハ御便宜取計致シマスカラ御遠慮ナク御相談下サイ。

高評のヨリ良いレクト紙を御使用あれ



若しシガレットを早く容易にお巻きならうを御考へなら

Chanteeler CIGARETTE PAPERS



自動組合せブック
百廿枚 一包 五仙

The Yokohama Specie Bank
822 3rd Ave., Seattle
Phone Elli. 3575 P.O. Box 1917

THE SUMITOMO BANK OF SEATTLE
802 3rd Ave., Seattle, Wash.

THE ROYAL BANK OF CANADA
East End Branch
Vancouver, B. C.

日本向送金手形、鄕里送金は左記のローヤル銀行支店にて御取次致しますから積々御利用下さい
晩香坡イーストエンド、スタウストン、ニューウエストミンスター、マーポール、ラドナーカムバランド、ヴイクトリア等

外國爲替賣買 世界の各大都市には支店或は代理店を置き全世界に亘つて活動して居ります殊に日本人諸君の爲めには日本の大銀行と取引關係を結び送金の迅速、確實、其他相場に就ては細心の注意を拂つて居ります
何卒 ローヤル銀行 を御利用下さい
メーン及ベスランダス街角
電話 シーモア四九〇六

當行が加奈陀に於て最大最強の銀行である事が既に皆樣の御承知の事と存じます、ビーシー州內に於ても五十餘の支店がありますから何れの地方の方々は手紙の便で取引して居られます
預金はローヤルで

SAVINGS WILL LEAD TO PROSPERITY

金壹弗以上御預入の方には此貯金箱を御貸申上ます

右確實御便利に御取扱致候間多少に不拘御用命の程願上候

晩香坡市バクエル街三九八
日加貯蓄會社
電話タクラス 四〇〇

貯蓄預金
當座預金
日本送金
家屋家財 火災保險
自動車保險

JAPAN AND CANADA TRUST SAVINGS CO.
P. O. Drawer 130 398 Powell Street
Vancouver, B. C.

MONARCH LIFE

現在の狀況に鑑み當社は左の共同生命保險を推奨します
▲御夫婦御一緒に
▲兄弟又は姉妹御一緒に
▲共同事業經營者御一緒に
一つの保險料で二人生命に對し契約金額を保證します——保險料の節約時節柄適應

委細は電話又は書面にて左記に御照會下さい

モナーク生命保險會社
日本人部主任 後藤金平
晩市ローヤルスビルヂング五三〇
電話シーモア四七四一 住宅ハイランド七七〇ワイ

五月人形大賣出し
スツカリ店內に陳列して居ります 御來店下さい
尙武ノ國日本
武士道ノ日本
祖國の良い處を永く保存しませう

上

大將飾	馬乘武家	神武將軍	若武者	加藤清正	桃太郎	神功皇后	加藤清正	牛若丸	鯉持金太郎
七五〇	七五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
七五〇	七五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
岩付鯉持	尺三号太刀揃	尺三号太刀揃	尺三号太刀揃	九寸大小太刀揃	八寸貝足	尺鷹道具	小陣道具	七五〇	四五〇
七五〇	七五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
尺三号太刀揃	尺貝足	尺号太刀揃	九寸大小太刀揃	八寸貝足	尺鷹道具	尺屏風七本立	尺五本立	尺八本立	尺三本立
七五〇	七五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
尺三号太刀揃	尺貝足	尺号太刀揃	九寸大小太刀揃	八寸貝足	尺鷹道具	尺屏風七本立	尺五本立	尺八本立	尺三本立
七五〇	七五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
岩付鯉持	尺三号太刀揃	尺号太刀揃	九寸大小太刀揃	八寸貝足	尺鷹道具	尺屏風七本立	尺五本立	尺八本立	尺三本立
七五〇	七五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
岩付鯉持	尺三号太刀揃	尺号太刀揃	九寸大小太刀揃	八寸貝足	尺鷹道具	尺屏風七本立	尺五本立	尺八本立	尺三本立
七五〇	七五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
岩付鯉持	尺三号太刀揃	尺号太刀揃	九寸大小太刀揃	八寸貝足	尺鷹道具	尺屏風七本立	尺五本立	尺八本立	尺三本立
七五〇	七五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
岩付鯉持	尺三号太刀揃	尺号太刀揃	九寸大小太刀揃	八寸貝足	尺鷹道具	尺屏風七本立	尺五本立	尺八本立	尺三本立
七五〇	七五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
岩付鯉持	尺三号太刀揃	尺号太刀揃	九寸大小太刀揃	八寸貝足	尺鷹道具	尺屏風七本立	尺五本立	尺八本立	尺三本立
七五〇	七五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
岩付鯉持	尺三号太刀揃	尺号太刀揃	九寸大小太刀揃	八寸貝足	尺鷹道具	尺屏風七本立	尺五本立	尺八本立	尺三本立
九五〇	七五〇	五〇〇	四五〇	九五〇	七五〇	四五〇	四五〇	四五〇	四五〇
九五〇	七五〇	五〇〇	四五〇	九五〇	七五〇	四五〇	四五〇	四五〇	四五〇
岩付鯉持	尺三号太刀揃	尺号太刀揃	九寸大小太刀揃	八寸貝足	尺鷹道具	尺屏風七本立	尺五本立	尺八本立	尺三本立
七五〇	七五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
岩付鯉持	尺三号太刀揃	尺号太刀揃	九寸大小太刀揃	八寸貝足	尺鷹道具	尺屏風七本立	尺五本立	尺八本立	尺三本立
七五〇	七五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
岩付鯉持	尺三号太刀揃	尺号太刀揃	九寸大小太刀揃	八寸貝足	尺鷹道具	尺屏風七本立	尺五本立	尺八本立	尺三本立
七五〇	七五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
岩付鯉持	尺三号太刀揃	尺号太刀揃	九寸大小太刀揃	八寸貝足	尺鷹道具	尺屏風七本立	尺五本立	尺八本立	尺三本立
九五〇	七五〇	五〇〇	四五〇	九五〇	七五〇	四五〇	四五〇	四五〇	四五〇

古屋商店
電話シーモア貳九參參
西ヘスタングス街四六

純情綺談

（五）

鬼頭恭二

てうせ、その晩だつたんですね。

しい顔を私の目の前へつきつけたんですが、

——おや、さよならあ、おやすみなさいつ。

それから口笛がして、ソプラノが陽気に唄をうたつて、それからひよいと窓がついて見ると、僕は一人ぼつちで池の端に突立つてゐるんだ。それから、また、わからなくなつちやつた」

「……」

「そのつぎに窓がついて見ると僕はでつかいカフエでめちや〳〵に飲んでゐる。あんたさつきからそれを見ちや泣きづめにしてたわつて女がそばでいふから、——いはれて見ると成る程、僕はそいつを目の前にひろげてゐて、ほつぺたのあたりの涙が乾いて硬ばつてゐるんだ。だからあわてゝそこをぬぐひ出して——くそつ、具合といふのは、かういふ具合だつたんだ、兄さん！」

弟は顔中をくしや〳〵に撫でると、また新しいのが湧ろ〳〵と眼をこぼれはじめたんです。

「よし、よし、泣くぢやない、泣くぢやないよ」

「うん、泣くもんか！　だいたい、ねゝ、兄さん、僕が大馬鹿だつたんだ。ね、あの文句の中にやもてる様を探したつて僕を愛してるなんて言葉はありやしないだ。巧妙極まる修辞学のテキストなんだ！　あゝ、あゝ、あゝつ」

「よろしい」

私も恐ろしく憧憬してしまつて弟の背中をさすりながらいつたんです。

「ふゝゝん、つて驚がしたんだ、くそつ」

「？」

「ちよつと離れたところに、卵の花の様があるんだが、そいつの上に、四し音のように十燭つの音かぁ、一度手を——」

「うむ、その時？」

「ふゝゝん、つて驚がしたんだ、くそつ」

「？」

「ちよつと離れたところに、卵の花の様があるんだが、そいつの上に、四し音のように十燭つの音かぁ、一度手を——」

「ふゝゝん？」

「みんなうちのお茶ツぴいなんだ僕は確にこつちから三番目はN子だつて感じたんだが、そうだらうをみんな揃つて、こんばんはつて、ていふんだ。僕も今晩は——思はずいつてしまつた」

「ふん？」

「何が何だかわからなくなつたんだ生！」

N子の聲がした。僕はその時はその聲がしたんで、驚げけしか聞なかつたんだ。それから別の聲で、

——お川さま、まんまるね、先生！

——おや、さよならあ、おやすみなさいつ。

それから口笛がして、ソプラノが陽気に唄をうたつて、それからひよいと窓がついて見ると、僕は一人ぼつちで池の端に突立つてゐるんだ。それから、また、わからなくなつちやつた」

「……」

「そのつぎに窓がついて見ると僕はでつかいカフエでめちや〳〵に飲んでゐる。あんたさつきからそれを見ちや泣きづめにしてたわつて女がそばでいふから、——いはれて見ると成る程、僕はそいつを目の前にひろげてゐて、ほつぺたのあたりの涙が乾いて硬ばつてゐるんだ。だからあわてゝそこをぬぐひ出して——くそつ、具合といふのは、かういふ具合だつたんだ、兄さん！」

弟は顔中をくしや〳〵に撫でると、また新しいのが湧ろ〳〵と眼をこぼれはじめたんです。

「よし、よし、泣くぢやない、泣くぢやないよ」

「うん、泣くもんか！　だいたい、ねゝ、兄さん、僕が大馬鹿だつたんだ。ね、あの文句の中にやもてる様を探したつて僕を愛してるなんて言葉はありやしないだ。巧妙極まる修辞学のテキストなんだ！　あゝ、あゝ、あゝつ」

「よろしい」

私も恐ろしく憧憬してしまつて弟の背中をさすりながらいつたんです。

アメリカの映畫界に新顏の日本人

森田幹が飛び出して活躍

野口英世博士の役で活躍

日本人も、アメリカへ」は、映畫では彼が第一人者となつてゐる。そして、博士に扮する俳優には、僅か、數名の一部人が選出されたゝ上に、人數の上に於ても、實に驚く可き多數の見られぬ映畫界に、特筆的な出現をしたる「三銅さんは珈琲栽培の富豪に映畫をよく利用してゐたが、そんな事が動機となつて、本格的に映畫界へ飛び込んだものでせう。多感な熱血兒タイプの人です」

◇

野口博士は南アメリカの風土病で斃れたものだが、この映畫では、アフリカ黒地に轉進し、博士の尊き犧牲を主旨として、北歐の名花タラ・ビルルとマーヴィン・ダグラスふたりの戀を調へ、黒人のエキストラを使つて、黒地映畫としての面白さを狙つてゐる。「ナガナ」はアフリカ土語で「瞳眼病」を意味してゐる

◇

それから、彼の親交雖氏と親交があつた長野市岩石町の元上水内郡長野地方課長野口繁夫氏は、「三樹君は物事に拘泥しない、竹を割つた樣な性格の人で、あちらでも隨分交際は廣い樣です、實に單不精な奴だが雄氣のある面白い男です」

◇

ネヤの銀幕の後で三味線をひいたり、男の說明者候補の時には、代つてはがらかに觀客によびかけてゐる

◇

そして家へ歸れば清山（一七）すみ子（一六）の二人の子女を育てゐるおとさんだ、彼女の長い映畫館生活の思出話の中には、淚落してゆく無聲映畫の悲哀が滲み出てゐる

私はこれでも五反田の町名主の家に生れ、よく親父母に連れられて芝居や寄席に行つたものでそのため芝居が好きになり、良人と別れてから總が身を助けてどうかこうかこんな商賣に入つてしまつた譯です

◇

トーキーが盛んになつてから、映畫の說明者は次第に淋しくなり、いまは僅か二三人で大いに骨に折つたらしいがそれは銀幕から裏の仕事だつたこの時、リンバスになつた役畫が、なう言つてわくかが、見ものである。——と、益にニュアーサルからひとり、金銀館の九人目鏡がとび出した。他、映畫界としては珍らしく、日本人の學者にかける功勞者としてゐるのだ。そこに故野口英世博士の偉大なるところがあるのだが、映畫から見ても、この新機軸は見逃せぬ事にとりあげたわけだ

◇

黄熱病の研究の爲め殉職となつた故野口英世博士の銅像建立ユニヴァーサル社で製作した「ナガ」で、ニューヨークの港頭に建てられる事になつた。ひさんは目下芝蘭公園に

◇

校を追はれて破、そこで親類と共に轉々と變遷の末、ニューヨークの某劇場の踊子となつて渡米。順風の樂な暮しをしてゐるが、男女合計六十二名の全國兒の睫毛調査の者は頭髮だけでなく、腕（上膊）の外側や背中の毛髮に異常發育を見るものであつて（肌の蒼く光る程で白い美人の腕などを御覽、白い肌に女としてはかなり濃い毛が密生して居るのを見るでせう、樣あしの美しいのも生來のカツキリと鮮かなゆめです）殊に背中の毛は（ルツ氏毛といつて診斷の確實な材料になつて居る、睫の長いのも毛髮の發育異常の一つの現れであつてこんな子供には往々にして眼に星（フリクテン）が入つて居るものである、私は都市の幼兒を調べればどこでも今回の調査と似た結果が現はれるのではないかと推測して居る」

◇

名主の娘さん

五十三歳で映畫說明者試驗に合格して活辯生活へ

マツ毛の長い子は肺病にかゝりやすい

結核性体質の人々は毛深く

ハゲ頭に肺病なし

◇

肺病結核、美人の要素の一つになつてゐる事實を證するためには、睫毛の長い事が擧げられるのであるが、男女合計六十二名の全國兒の睫毛調査の者は頭髮だけでなく、腕（上膊）の外側や背中の毛髮に異常發育を見るものであつて（肌の蒼く光る程で白い美人の腕などを御覽、白い肌に女としてはかなり濃い毛が密生して居るのを見るでせう、樣あしの美しいのも生來のカツキリと鮮かなゆめです）殊に背中の毛は（ルツ氏毛といつて診斷の確實な材料になつて居る、睫の長いのも毛髮の發育異常の一つの現れであつてこんな子供には往々にして眼に星（フリクテン）が入つて居るものである、私は都市の幼兒を調べればどこでも今回の調査と似た結果が現はれるのではないかと推測して居る」

◇

大体健康な日本人の睫の普通の長さは七ミリメートルから八ミリメートル、これ以上のものは長いといはれて居るのであるが、平均種別兒は八ミリ以上のものが男女とも九十パーセントを突破して居るのです、九ミリ以上のものだけを全國兒數に對する比例で示すと男七十七パーセント、女七十八パーセント、また十ミリ以上だけでは男五十三パーセント、女五十八パーセントの多きに上り平均すると男兒は九・四ミリ、女兒は九・七ミリになり最長の子供は十三ミリといふ長いのさへありますこの結果はこれまでの他の方面の調査の何れよりも遙に長睫兒の多い事を證明した大阪市立幼稚園で長谷川巳三郎博士は熱心に睫について特に研究しながら幼稚園の子に長睫兒の多いといふ事を立證するも前から「睫毛の長い子は肺い」

◇

元氣でピンく跳びなはねてゐるのに體熱がある子供が多い——といふ事を發表して注意したところ、果してそうであつたことがありまた、それを事實について明したる例がありました

◇

◇

◇

求職の申込み
太平洋を越えて日本へ
アメリカ娘二人
米國で大學卒業の日本人五十名も

東洲に來學生二百餘人、國ハウス職業紹介所で事務をとつた經驗あるといふ

三百度の國際赤字二十八億弗——これはアメリカの巨大な不況の數字であるが、アメリカ人が深刻な不況に悩んでゐるアメリカからの求職狂が日本へ押寄せて日本（婦人）といふ獨身者、日本の一般家庭から一種の花嫁さんとして日本の各地にかけてゐる一種の「職業紹介所」の必要が痛感されてゐるわけで、日本の各地にかけても一服ついでやらなくちやゐ豊原領事、日野千水が日下苦慮これにつとめてゐる

◇

その求職アメリカ娘の一人はオハイオ州でンスフイールドのローリン・ストローム嬢（四）といふ獨身者、目地の太平山後レンソンビユニア・ハイスクールで英語、歴史の教師をしてゐた父ソイ・ダンバユ・レー・ユーやガールス・スカウト、各種社會事業にはツユスサンダ

◇

もう一人はホノルルにあるホルビーといふドイツ系の紹介所に勤務してゐた經驗があるので來日本人からも内地における求職狂を看破して折よく紹介所に通訳を希望して折衝中、双方共ドイツ語家がありついた、双方共ドイツ語家がツイエル氏（九）や白鐵系レオニードツーレ氏（四）もこゝの開門を通じて仕事を見つけたなど職業紹介所の一大進展として注目されてゐる

◇

然るに發展は未だ止まず十六日夜九時また〳〵ツバトの西方一哩半の西田祉松氏農園に爆發起り幸ひに人命の損害はなかつたが既報の爆發事件と同じく手榴彈を使用した形跡明瞭である、被害者西田氏の直話によれば

「十六日夜九時十分頃突然たる爆發と共に住宅（廚房建）のウインドは爆破された、私は連夜各種の集會の爲め寢不足で常夜は早くから床に入つてゐたのであつたが直ぐ様起き先日の伊藤氏宅爆發の發例もあるので或は他にまた爆發するのではないかと靴し戸外に出るのを警戒へたが五分間も他の爆發がなかつたので戸外に出で自動車で家の外を見廻つた所、爆彈は表の道路からハツトベツトに投げつけたもので其邊のフエンスは遠くまで吹き飛ばされて居た」

◇

前回の伊藤氏の場合と同じく今度のも爆發地點の地面があまり破壞されず附近及び上部建物の破壞の甚だしき事、又爆音が高く近隣の家が震動するところなどを見ると何れも同じ手口で手製の爆彈を使用したものと想像される、幸ひに家人に怪我はなかつたが最近毎夜の如く放火爆發事件が頻々として起るのでツバトの同胞は全く不安の念に閉されてゐる

日本人農家に
ヒリツピン人排斥のヤキマで
又もや爆彈騒ぎ

からざるものがある、シアトルの内山領事は十七日夜六時發の列車でヤキマに向ひ同地日本人會幹部と會見、各支部が勝手に各自加入する結果中央の聯盟との關係が薄らいで統一を缺くことになるとかの不利があり、敎師の立場から再考を必要とすると云ふのであつて探決の結果は賛否同數で同案は自然否決となつた、因に現在メンバーの敎員數は四千三百七十七名で昨年度より四十九名の減少である

授業料値上
ピーシー大學で

四月▲氷川丸　廿二日▲カナダ　廿二日▲タフト　廿二日

▲再渡航證明、參民官手續、妻子及使用人呼寄手續
▲出生、死亡、婚姻等届書、加奈陀政府出生届手續
▲歸化證にて當國旅券下附及妻子同伴手續其他一般代理

晩香坡市バウエル街二三五
日本郵船會社
晩香坡船客係
中山義一事務所
電話ドグ三九四　住宅ハイ二二〇七アール

營業上の帳簿整理、兩政府へ提出するインカム・タツキス報告作成代理事務を取扱ふ

水原代理事務所
竹中德二郎
〔各種保險代理〕
〔日本行船切符販賣〕
東（スタンダス街二〇C八
電話シーモア三四四七

船切符販賣代理
領事館及當國政府諸届願書代作
其他法律事務代辯
井手律事務所
バウエル街二三一　電話ダグラス五五七六

日本行汽船切符直接販賣
移民、官手續、西渡航證明
妻子及使用人呼寄手續
諸願届代書一般代理業
晩香坡市バウエル街二〇三
竹内事務所
竹内　内　梅吉
電話ツリニチー三六二三　自宅ハイ二九一三エル

日本行汽船切符直接販賣所
四月▲氷川丸　廿二日▲カナダ　廿二日▲タフト　廿二日

▲再渡航證明、參民官手續、妻子及使用人呼寄手續
▲出生、死亡、婚姻等届書、加奈陀政府出生届手續
▲歸化證にて當國旅券下附及妻子同伴手續其他一般代理

晩香坡市バウエル街二三五
日本郵船會社
晩香坡船客係
中山義一事務所
電話ドグ三九四　住宅ハイ二二〇七アール

營業上の帳簿整理、兩政府へ提出するインカム・タツキス報告作成代理事務を取扱ふ

水原代理事務所
竹中德二郎
〔各種保險代理〕
〔日本行船切符販賣〕
東（スタンダス街二〇C八
電話シーモア三四四七

船切符販賣代理
領事館及當國政府諸届願書代作
其他法律事務代辯
井手律事務所
バウエル街二三一　電話ダグラス五五七六

治療と榮養の……**文研の胚芽**……一、五〇
獨逸製强精劑……**スペルミン**……二、五〇
胃腸病、喘息、肺結核に……**オセロ**……一、二〇
新しい○○良藥……**ケンゴール**……三、八〇
脂肪肥滿に安全な呑藥アイマー……三、〇〇

文化商會
晩香坡市バウエル街二五〇電話シー四〇八七
時節柄値段は特に大勉强

魚肉青物類
新江州澤庵、酒粕　其他**食料品一切**
バウエル街三五三　電話ツリニチー五七八四
スター魚肉店

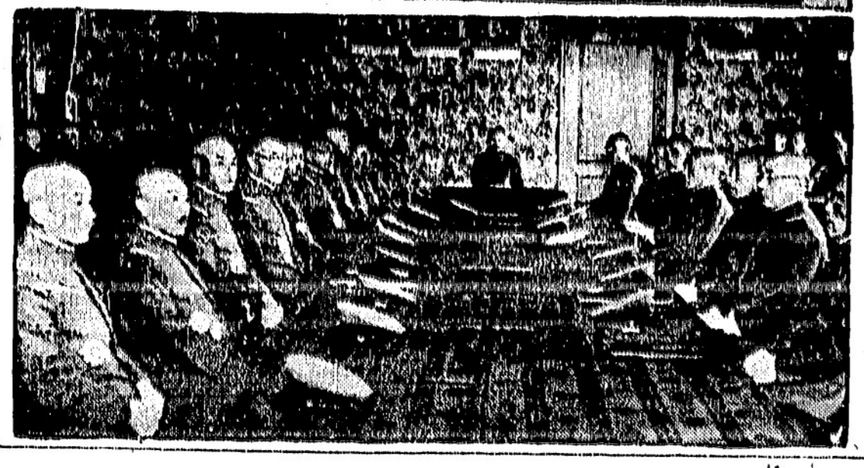
大勉强
晩市バウエル街二六八
天野運送舍
杉山新吉
電話ダグラス三〇五九

Manufacturers Life

保險金二千弗
二十ヶ年掛終身保險に對する一ヶ年の掛金

加入年齡	掛金
二十才	五十三弗
二十五才	五十七弗九十仙
三十才	六十三弗六十
三十五才	七十弗八十仙

マニュファクチャラース
生命保險會社
晩市ゴーア街二〇三　電話ダグ二八三
信夫事務所



米國のインフレ
日本に好影響を與ふ
貿易業者側の觀測
四月中旬の貿易は順調

フレーションによる物價高が好影響を與ふると見られてゐる

地方長官會議
第四日目は
陸軍省所管

地方長官會議第四日は二十日午前九時から陸軍戸山學校で開會陸軍側からは荒木陸相、柳川、土岐兩次官、石井參與官、山岡軍務局長列席、陸相より（一）軍民一体の實を擧現すべき必要

（二）兵役義重觀念の徹底と兵役義務力行者の待遇（三）傷痍軍人及び遺族家族の慰恤（四）青少年の心身の陶冶鍛錬（五）召集及び徴發の準備と軍機の保護（六）國土防空等について訓示あり次いで軍務局の鈴木貞一中佐から最近の國際情勢並に支那の狀況について説明し終つて陸相招待の午餐會に臨み午後一時散會した

武術の大會
參加者二千名

大日本武德會本部では來る五月四日より九日迄京都平安神宮で第三十七回武德祭及び大演武會を擧行するが、演武種目は柔劍道槍術、居合術、薙刀術、鎖鎌、弓道等で此大會に參加する人員は全國猛者二千名に上り武德會年中行事中最大の大會である

印棉のボイコット
織物業者主張

日印協會着電によると十五日インド上院通過のダンピング防止法を仔細に檢するとボ綿布以外の一般商品は十月までは增稅なしと見られるが、綿布は十月末までに增稅なしとは斷言出來ぬ、尤も一般商品を十月まで增稅せぬとするも急速に多量に荷送りするはインド政府の感情を激化させ將來の交渉を困難にすると、尚は日本綿織物工業組合聯合會と輸出綿織物同業組合聯合會では日印條約廢棄對策を本日協議の結果「インド棉花の不買を斷行せよ、印棉に對しインドが日本品に課す最高率稅と同額の輸入關稅を課せよ」等の强硬聲明を發表した

朝鮮の共產黨
再建計畫發覺

一月八日慶尚南道釜山署により共產黨容疑者として逮捕した宋演秀を調べた結果、朝鮮全道に共產黨の再建計畫あるを發見し警務局では二月廿五日全鮮に亙り一齊檢擧を開始し四十三名を逮捕し取調べたが本日像審終結十六名を起訴した、一味は全鮮を五區に分ち勞働者の結成を目標に地下運動をして居たが充分な組織を持たない中に檢擧された、最高指導者は昨年九月全協系が計畫した汎太平洋反帝運動會議事件で警視廳に檢擧された金斗禎で支那の黃埔軍官學校出身である

勞働會議加入
學校の先生だちが計畫したが
當局の壓迫を恐れて見合せ

反對の主なるものは、加入の精神には異義がないが、例へば同情罷業を餘儀なくされる場合とか、各支部が勝手に各自加入する結果中央の聯盟との關係が薄らいで統一を缺くことになるとかの不利があり、敎師の立場から再考を必要とすると云ふのであつて探決の結果は賛否同數で同案は自然否決となつた、因に現在メンバーの敎員數は四千三百七十七名で昨年度より

廢物利用の
バザー開催
勞働組合の
婦人部主催

勞働組合婦人部では來る五月六日（土曜日）正午より午後十一時まで民衆ホールで廢物利用のバザーを開催する、右に婦人の家庭經濟を助ける意味のもとに開かれるものであるが、今回は出品者に物品の價格を附けて貰ひ其の物品の賣上げ金は出品者のものにすると云ふ方法をとり、婦人部に寄贈された品の賣上げ金は婦人部の資金に繰入れる、品物はすべて廢物、或は不用の品を主とするが種類には制限なく夏向きの古着類、帽子、靴、日用具類一切、自身で廢物を利用して作製されたものも歡迎する、申込みの締切は前日迄であるがクリーニングを要するものは數日前までにホールへ届けられたい

砂糖と麥粉
晩市で値上

先日消費稅引上げで百斤につき十仙の値上がりを見た砂糖値は當地卸市場で今朝更に十仙高騰し百斤俵六弗五十仙となつた、尚小麥相場が高騰の結果、小麥粉一バーレル卸値も十仙高の四弗八十五仙、四十九斤袋一弗廿一仙半となつた

廣告
▲ドミニオン・インカ・タキスの報告は四月三十日限なり
▲報告用紙はバウエル街二三五中山事務所にあり
▲報告手續に就ては日本人部調査員中山義一氏に問合すべし

天氣の豫言者
としてスエルゼンサロで
高い名聲を
博したヨーロツパ人
君

◇日本郵船、シーピーアール、アメリカンライン
◇本派佛敎婦人會——明日午後七時よりカドバ會館に於て佛敎婦人會例會及び役員會を開くにつき皆出席せられたし
◇マーボール佛敎婦人會——來る廿三日午後二時より同地語學校に於て例會を開く由、尚廿二日同地定例說敎は休みなり
◇ミツション佛敎會定例說敎——廿三日午後二時より同地佛敎會に於て例會を開き多田開敎使の現世利益に就き說敎あり

◉日本行郵便物本局締切日
【書留は卅分、小包は二時間前
（爲替受付後八時半（土）後一時迄
◉シーピー列車（東部行）
發　前七時三十・前十二時後五時
後六時五十・後十時
着　後六・三十・前九・前十、十五
後十一、三十・後七、
◉卸　相　場
▲卵＝エキストラ
同ファースト
同ブレット
▲野　菜＝ピーツ
ルバーブ
クニオン
アニオン、オカナガン
バースリ
▲果物＝アップ
ピーナ
オレンヂ
▲生肉＝牛　肉
豚
◉シーピー船
▲ビクトリア行
發　前十時半
着　後三時半
▲シアトル行
▲ユニオンベー及コモックス行
後十二、豐（火木土）バウエル河經由
▲ホワイトパス、ルパート行
水曜後八時（シーピー）
月曜後八時（シーエス）
▲皇港及ナース河行
金曜後九時
▲ハウサンド行
前九時（日前九時半）
▲西ハウサンド行
◉日本行郵便物本局締切日
【書留は卅分、小包は二時間前
（爲替受付後八時半（土）後一時迄
◉シーピー船
▲氷川丸
發　前十時
着　後三時
▲カナダ行
四月廿二日
氷川丸
前十時
同廿二日
カナダ
前十時

皇太后宮沼津へ行啓

三笠宮御用邸に御滞在中の皇太后宮には四月二十一日午後一時御用邸を御出門、同二時半沼津駅御着、同駅より御召列車にて御帰京遊ばされる

東京特電

齋藤内閣はいよ〳〵
居据りの決心
高橋藏相がやめても
後任を入れて時局擔當

高橋藏相は大藏省内殺の五・一五事件の後經過で辭任せぬので政本體だが、齋藤首相はその際に後任を任命と見られるして齋藤首相は時局重要なる英米との間に日下の所藏相を持てゐるが、時には日下の所藏相を持てゐるが、時には日下の所藏相を持てゐるが、時には

孔雀船

加藤武雄

三つの心（三）

「厭つて――。」

耳丸は、百合子の口に接吻をするやうにして、一心に聽き入つた。

部屋の中には、雌三と紫助とが對坐してゐる。紫助は、卓の上に肘をつき、片手の掌で、額際をした面を抑へてゐた。

「ねえ、君ー。」

雌三は、低く伏せた紫助の顏を覗き込むやうにして、

「これがけいつたら、僕の氣持もわかつて呉れるだらう？　君に會はなけりや宜かつたんだ！　いや、會はなけりやよかつたのだ。いや、厭つて來なけりやよかつたのだ。」

と、紫助は呻くやうに、

「僕のやうな除け者が厭つて來たばかりに――。除け者といや、僕は、はじめから――はじめから除け者だつたんだ！」

と、つぶやいて、先に立つた二人があとについて行くと、暗い廊下の中程の、右側の部屋（眼科）を指して、

「こゝですよ。」

さういつて、老婆は向うへ行つた。

「こゝね。」

百合子がいきなりドアに飛びつかうとするのを、耳丸は制して、

「待つてよ。百合ちやん、お客さまらしいわ。」

小聲にさゝやいて、內部の樣子に眼を注てゐる。

ドア越しに聞える會話は、何か醉く切迫した語調をもつてゐる。

「厭つて――。」

耳丸は、百合子の口に接吻をするやうにして、一心に聽き入つた。

部屋の中には、雌三と紫助とが對坐してゐる。紫助は、卓の上に肘をつき、片手の掌で、額際をした面を抑へてゐた。

「ねえ、君ー。」

雌三は、低く伏せた紫助の顏を覗き込むやうにして、

「これがけいつたら、僕の氣持もわかつて呉れるだらう？　君に會はなけりや宜かつたんだ！　いや、厭つて來なけりやよかつたのだ。」

と、紫助は呻くやうに、

「僕のやうな除け者が厭つて來たばかりに――。除け者といや、僕は、はじめから――はじめから除け者だつたんだ！」

探偵秘帖 百鬼夜行

（第三百四十五回）

悟道軒圓玉作

田町の屯所へ

「ウーム、お前は探偵だな、偉つまらねえな、犬だな」

○「愛嬌のねえ奴だ、少し褒める度にいちいちけなすことがあるんだ、田町の屯所まで来てくれねえ」

これを聞くと八百松はびっくりして

松「冗談じゃねえ、俺に聞きてえことがあるなら、何んなことでも聞かねえうちは帰らねえが、用があるなら俺のほうから出て来ねえ」

○「俺はお上の御用についてお前出す、今こんな物は見かけねえがと」

と叱りつけた、これによって今はこれが判らない。

○「これ、たびたくさんさうにとは何ういふ趣意か、屯所へ届出ることだ」

△「これは困りましたな、あれは猫のかむりの文句をもとってこしらへたもので、猫の猫のかぶりものしりから聞いたことがわる」

源「イヤさいのことについて聞くんだやナねえ、まあ一緒に行ってくんなさ」

と源七は八百松をつれて田町の屯所に来たその当時はこれをたむろというた、今の警察の事ですそのたむろのことについてはおかいしな点がある、明治初年のこと本所相生町一丁目で強盗ずつりをした、丁度初年でした、地口行灯をろ

薬の調合

公認 パウエル薬店
バウエル街三九九
電話 シーモア五〇二

ショウを当瓶の半価の販売店
Powell Drug Co.
249 Powell St. Vancouver, B.C.

石炭重に運送業

電話はシーモア五七三
バウエル街九七番
コール販賣 小宮商店
タバコ果物

喘息二分間治療器

醫學士萩原醫學製劑監督
理想的 喘息通劑 モナート

専賣特許 アストール

本器を使用すれば激烈なる喘息發作及呼吸困難も二分間以内に的確に沈靜せらるゝ一般に喘息氣分を加味せる場合及百日咳等にも奏効著し

入弗五十仙

石炭販賣 誠心堂内 伊吹運送社

誠心誠意

帝國練習艦隊來航記念葉書

晩香坂市バウエル街二四九

誠心堂

電話 シーモア四八八四
249 Powell St. Vancouver.

和洋雜貨食料品 漁船用具類一切

ボートエシントン郵函三一
岸本商店
P.O. Box 31
Port Essington, B.C.

高等 南京料理

日本人諸君の御來店を歡迎仕候
晩香坂市バウエル街二五二
新北京
電話 シーモア七七四一 同三五一七

高等南京料理

コックは此の道の腕さへで料理は皆様のお口に合ふやう
美味に調理 値段は大々的勉強
晩香坂市バウエル街三八二
新南京樓
電話 シーモア七八七五

御移轉又は御歸國の際是非更生の前川へ

時節柄大々勉強
日本行各船切符取次
晩市バウエル街三四四
優良石炭 前川運送舍
電話 シーモア七六六四

輕快な春のお支度は

常に大勉強中の弊店で
バウエル街三二九
電話ドグ一七四七
宮崎商店

米 精新西院市 和洋雜貨食料品

日本郵船 C.P.R.
日本アメリカンライン
日本行船切符
C.P. Express Moneyorder
販賣代理店
横濱正金銀行預金扱
送金無手數料取次
西口商店
電話 豐六一一一八八五
自宅 九〇九エッキス

御手輕料理

アレキサンダー街三六二
電話七二三 吉野

鈴蘭文子

バウエル街三三三
電話ダグラス五五一五

御めし 丼物一切

每朝七時開店
晩市バウエル街二四三
安値 御めし 目さまし
電話シー五八二四

おめし

朝七時半より
御一人前廿仙
丼物其他も格安に御需に應じます
晩市バウエル街二三七半
錦州亭 岩崎久子
電話シー一一八五アール

すし

丼物一切、田樂豆腐
御料理色々、めし
バウエル街四二一
羽衣
電話ハイランド三七八

鳥類卵 豆腐類

種々御注文に應じます
晩市コーア街二一六
宮崎豆腐店
電話ドグラス四六七三エル

小澤靴店

バウエル街二四四
電話シー三七二一
住宅ハイ二五八六エキス

諸種製材

御入用の節は日本人販賣人
山崎又は塚に御面談下さい
新西院
モハーク製材所
Mohawk Lumber Co.
New Westminster, B.C.

紙類及文房具卸商

晩市ホーマー街九九六
電話ツリニテー二五三一
COLUMBIA PAPER CO. LTD.

和洋雜貨食料品 漁船用具類一切

ボートエシントン郵函三一
岸本商店
P.O. Box 31
Port Essington, B.C.

千鳥

バウエル街二二九
電話ドグ五五七八
線田玉子

樂々

コーア街一二〇
電話ダグ二七〇六

天狗

鋼燒うなぎ、そば、すし
どんぶり物一切出前致します
バウエル街二五〇
電話シー三五三八

●魚類 ●肉類 ●青物類 ●カマボコ ●和洋食料品

バウエル街二六二
茶木魚店
茶木太三郎
電話ドグラス五五四二

御手輕料理

アレキサンダー街三六二
電話ダグラス七二三 吉野

諸種製材

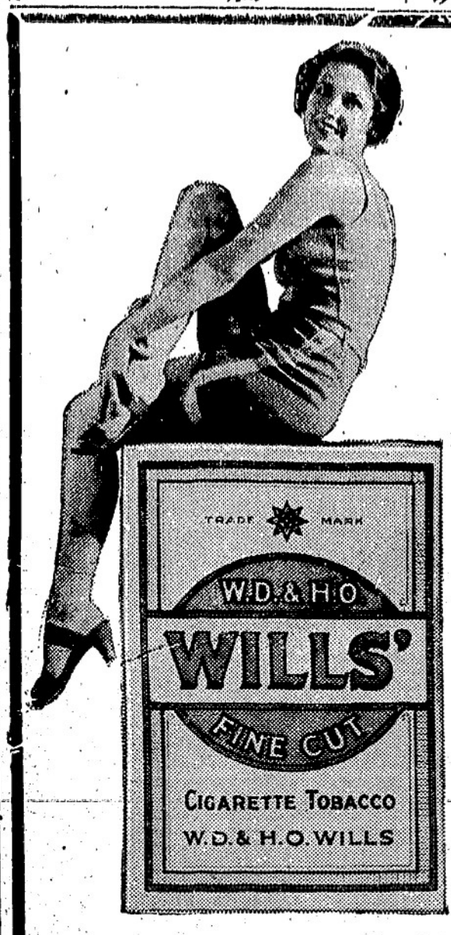
御入用の節は日本人販賣人
山崎又は塚に御面談下さい
新西院
モハーク製材所
Mohawk Lumber Co.
New Westminster, B.C.

御移轉又は御歸國の際是非更生の前川へ

時節柄大々勉強
日本行各船切符取次
晩市バウエル街三四四
優良石炭 前川運送舍
電話シーモア七六六四

輕快な春のお支度は

常に大勉強中の弊店で
バウエル街三二九
電話ドグ一七四七
宮崎商店



御手巻には何故最上等品を御使用なりませぬ ウイルス細刻み シガレット煙草

は金色バーデニアリーフを使用しシャンテクラー巻紙又はチューブを使用して御巻きになれば本當に優良な煙草ですシャンテクラーシガレット紙をウイルフアインカット に使用あれ 一包 十五仙 無料 シャンテクラーシガレット紙附

ビクター レコード、ラジオ、蓄音機

クスリ 化粧品

エヴクレーム

脫毛劑

塗つて三乃至五分間後には魔法のやうにムダ毛がとれます
ワキの下、腕、脚、襟あし等のムダ毛を除いて隱されたる素肌の美を思ふさま發揮して下さい
皮膚を少しも荒さないでしかも氣持ちよくムダ毛、ウブ毛を一掃するのがエヴの特長です
ウブ毛、ムダ毛を除けば白粉がピロードのやうに美しくつきます

ラキサトール

下劑

ラキサトールは少量で効を奏し無味無臭でありますから婦人小兒も嫌悪せず又服用が簡易で副作用が絶無であります、排便は緩和で習慣性を來さない爲め常習便秘者にとつては理想的下劑であります

みかご運送店

晩坂坂、スタブストン間
電話スタブストン二

大正堂

バウエル街三〇一 電話ダグラス五五

金鵄勳章まで佩用 大膽な偽中尉

十餘年も郵軍分會長に納つて 高貴の方に度々拝謁

（筧の役で本人は大正十四年に死亡）と稱し、下關市内に個人で行政裁判所で手續を取り、その筋の御厚意で自分の從弟で自分の戸籍面に載つて居る谷部友吉（仮名）を相手取つて戸籍訂正の訴訟を起し、その判決の確定するや、直ちに戸籍面の名を友吉から自分の名に變更し、更に陸軍省に對し、自分が日露戰役に從軍し金鵄勳章を授與されたと虚偽の申立をなし、その手續を進めつゝあつたが、これも遂に發覺し、去る二月十日下關署に檢擧されたが、その詐欺の手口は實に大膽極まるもので、その犯罪事實は左の如く發表した

◇

去る二月九日午前十時頃、下關市内竹崎町の郵便局で下關郵便局の郵便貯金通帳を持つた男が現はれ、貯金の拂戻しを請求したので、係員は直ちに通帳を預かり、その筋に連絡を取つた上、その男を呼び入れ、取調べ中同人は金庫内に侵入し、通帳を奪つて逃走しようとしたので、係員は直ちに之を捕へ、警察官に引渡した、次の犯罪事實が判明した

◇

即ち、明治四十四年三月頃、下關市内竹崎町の某旅館に投宿中、同旅館の女中Aに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Aを欺いて情交關係を結び、次で大正十一年十一月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Bに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Bを欺いて情交關係を結び、次で大正十二年一月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Cに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Cを欺いて情交關係を結び、次で大正十二年二月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Dに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Dを欺いて情交關係を結び、次で大正十二年三月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Eに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Eを欺いて情交關係を結び、次で大正十二年四月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Fに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Fを欺いて情交關係を結び、次で大正十二年五月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Gに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Gを欺いて情交關係を結び、次で大正十二年六月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Hに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Hを欺いて情交關係を結び、次で大正十二年七月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Iに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Iを欺いて情交關係を結び、次で大正十二年八月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Jに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Jを欺いて情交關係を結び、次で大正十二年九月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Kに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Kを欺いて情交關係を結び、次で大正十二年十月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Lに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Lを欺いて情交關係を結び、次で大正十二年十一月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Mに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Mを欺いて情交關係を結び、次で大正十二年十二月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Nに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Nを欺いて情交關係を結び、次で大正十三年一月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Oに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Oを欺いて情交關係を結び、次で大正十三年二月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Pに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Pを欺いて情交關係を結び、次で大正十三年三月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Qに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Qを欺いて情交關係を結び、次で大正十三年四月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Rに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Rを欺いて情交關係を結び、次で大正十三年五月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Sに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Sを欺いて情交關係を結び、次で大正十三年六月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Tに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Tを欺いて情交關係を結び、次で大正十三年七月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Uに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Uを欺いて情交關係を結び、次で大正十三年八月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Vに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Vを欺いて情交關係を結び、次で大正十三年九月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Wに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Wを欺いて情交關係を結び、次で大正十三年十月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Xに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Xを欺いて情交關係を結び、次で大正十三年十一月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Yに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Yを欺いて情交關係を結び、次で大正十三年十二月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Zに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Zを欺いて情交關係を結び、次で大正十四年一月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Aに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Aを欺いて情交關係を結び、次で大正十四年二月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Bに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Bを欺いて情交關係を結び、次で大正十四年三月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Cに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Cを欺いて情交關係を結び、次で大正十四年四月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Dに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Dを欺いて情交關係を結び、次で大正十四年五月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Eに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Eを欺いて情交關係を結び、次で大正十四年六月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Fに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Fを欺いて情交關係を結び、次で大正十四年七月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Gに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Gを欺いて情交關係を結び、次で大正十四年八月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Hに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Hを欺いて情交關係を結び、次で大正十四年九月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Iに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Iを欺いて情交關係を結び、次で大正十四年十月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Jに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Jを欺いて情交關係を結び、次で大正十四年十一月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Kに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Kを欺いて情交關係を結び、次で大正十四年十二月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Lに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Lを欺いて情交關係を結び、次で大正十五年一月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Mに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Mを欺いて情交關係を結び、次で大正十五年二月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Nに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Nを欺いて情交關係を結び、次で大正十五年三月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Oに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Oを欺いて情交關係を結び、次で大正十五年四月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Pに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Pを欺いて情交關係を結び、次で大正十五年五月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Qに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Qを欺いて情交關係を結び、次で大正十五年六月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Rに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Rを欺いて情交關係を結び、次で大正十五年七月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Sに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Sを欺いて情交關係を結び、次で大正十五年八月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Tに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Tを欺いて情交關係を結び、次で大正十五年九月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Uに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Uを欺いて情交關係を結び、次で大正十五年十月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Vに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Vを欺いて情交關係を結び、次で大正十五年十一月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Wに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Wを欺いて情交關係を結び、次で大正十五年十二月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Xに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Xを欺いて情交關係を結び、次で大正十六年一月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Yに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Yを欺いて情交關係を結び、次で大正十六年二月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Zに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Zを欺いて情交關係を結び、次で大正十六年三月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Aに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Aを欺いて情交關係を結び、次で大正十六年四月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Bに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Bを欺いて情交關係を結び、次で大正十六年五月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Cに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Cを欺いて情交關係を結び、次で大正十六年六月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Dに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Dを欺いて情交關係を結び、次で大正十六年七月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Eに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Eを欺いて情交關係を結び、次で大正十六年八月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Fに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Fを欺いて情交關係を結び、次で大正十六年九月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Gに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Gを欺いて情交關係を結び、次で大正十六年十月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Hに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Hを欺いて情交關係を結び、次で大正十六年十一月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Iに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Iを欺いて情交關係を結び、次で大正十六年十二月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Jに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Jを欺いて情交關係を結び、次で大正十七年一月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Kに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Kを欺いて情交關係を結び、次で大正十七年二月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Lに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Lを欺いて情交關係を結び、次で大正十七年三月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Mに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Mを欺いて情交關係を結び、次で大正十七年四月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Nに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Nを欺いて情交關係を結び、次で大正十七年五月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Oに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Oを欺いて情交關係を結び、次で大正十七年六月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Pに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Pを欺いて情交關係を結び、次で大正十七年七月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Qに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Qを欺いて情交關係を結び、次で大正十七年八月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Rに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Rを欺いて情交關係を結び、次で大正十七年九月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Sに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Sを欺いて情交關係を結び、次で大正十七年十月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Tに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Tを欺いて情交關係を結び、次で大正十七年十一月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Uに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Uを欺いて情交關係を結び、次で大正十七年十二月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Vに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Vを欺いて情交關係を結び、次で大正十八年一月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Wに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Wを欺いて情交關係を結び、次で大正十八年二月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Xに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Xを欺いて情交關係を結び、次で大正十八年三月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Yに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Yを欺いて情交關係を結び、次で大正十八年四月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Zに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Zを欺いて情交關係を結び、次で大正十八年五月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Aに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Aを欺いて情交關係を結び、次で大正十八年六月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Bに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Bを欺いて情交關係を結び、次で大正十八年七月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Cに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Cを欺いて情交關係を結び、次で大正十八年八月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Dに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Dを欺いて情交關係を結び、次で大正十八年九月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Eに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Eを欺いて情交關係を結び、次で大正十八年十月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Fに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Fを欺いて情交關係を結び、次で大正十八年十一月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Gに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Gを欺いて情交關係を結び、次で大正十八年十二月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Hに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Hを欺いて情交關係を結び、次で大正十九年一月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Iに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Iを欺いて情交關係を結び、次で大正十九年二月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Jに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Jを欺いて情交關係を結び、次で大正十九年三月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Kに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Kを欺いて情交關係を結び、次で大正十九年四月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Lに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Lを欺いて情交關係を結び、次で大正十九年五月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Mに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Mを欺いて情交關係を結び、次で大正十九年六月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Nに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Nを欺いて情交關係を結び、次で大正十九年七月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Oに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Oを欺いて情交關係を結び、次で大正十九年八月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Pに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Pを欺いて情交關係を結び、次で大正十九年九月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Qに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Qを欺いて情交關係を結び、次で大正十九年十月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Rに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Rを欺いて情交關係を結び、次で大正十九年十一月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Sに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Sを欺いて情交關係を結び、次で大正十九年十二月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Tに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Tを欺いて情交關係を結び、次で大正二十年一月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Uに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Uを欺いて情交關係を結び、次で大正二十年二月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Vに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Vを欺いて情交關係を結び、次で大正二十年三月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Wに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Wを欺いて情交關係を結び、次で大正二十年四月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Xに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Xを欺いて情交關係を結び、次で大正二十年五月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Yに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Yを欺いて情交關係を結び、次で大正二十年六月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Zに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Zを欺いて情交關係を結び、次で大正二十年七月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Aに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Aを欺いて情交關係を結び、次で大正二十年八月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Bに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Bを欺いて情交關係を結び、次で大正二十年九月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Cに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Cを欺いて情交關係を結び、次で大正二十年十月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Dに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Dを欺いて情交關係を結び、次で大正二十年十一月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Eに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Eを欺いて情交關係を結び、次で大正二十年十二月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Fに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Fを欺いて情交關係を結び、次で大正二十一年一月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Gに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Gを欺いて情交關係を結び、次で大正二十一年二月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Hに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Hを欺いて情交關係を結び、次で大正二十一年三月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Iに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Iを欺いて情交關係を結び、次で大正二十一年四月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Jに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Jを欺いて情交關係を結び、次で大正二十一年五月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Kに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Kを欺いて情交關係を結び、次で大正二十一年六月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Lに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Lを欺いて情交關係を結び、次で大正二十一年七月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Mに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Mを欺いて情交關係を結び、次で大正二十一年八月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Nに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Nを欺いて情交關係を結び、次で大正二十一年九月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Oに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Oを欺いて情交關係を結び、次で大正二十一年十月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Pに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Pを欺いて情交關係を結び、次で大正二十一年十一月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Qに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Qを欺いて情交關係を結び、次で大正二十一年十二月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Rに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Rを欺いて情交關係を結び、次で大正二十二年一月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Sに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Sを欺いて情交關係を結び、次で大正二十二年二月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Tに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Tを欺いて情交關係を結び、次で大正二十二年三月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Uに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Uを欺いて情交關係を結び、次で大正二十二年四月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Vに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Vを欺いて情交關係を結び、次で大正二十二年五月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Wに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Wを欺いて情交關係を結び、次で大正二十二年六月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Xに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Xを欺いて情交關係を結び、次で大正二十二年七月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Yに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Yを欺いて情交關係を結び、次で大正二十二年八月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Zに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Zを欺いて情交關係を結び、次で大正二十二年九月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Aに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Aを欺いて情交關係を結び、次で大正二十二年十月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Bに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Bを欺いて情交關係を結び、次で大正二十二年十一月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Cに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Cを欺いて情交關係を結び、次で大正二十二年十二月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Dに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Dを欺いて情交關係を結び、次で大正二十三年一月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Eに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Eを欺いて情交關係を結び、次で大正二十三年二月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Fに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Fを欺いて情交關係を結び、次で大正二十三年三月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Gに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Gを欺いて情交關係を結び、次で大正二十三年四月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Hに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Hを欺いて情交關係を結び、次で大正二十三年五月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Iに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Iを欺いて情交關係を結び、次で大正二十三年六月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Jに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Jを欺いて情交關係を結び、次で大正二十三年七月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Kに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Kを欺いて情交關係を結び、次で大正二十三年八月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Lに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Lを欺いて情交關係を結び、次で大正二十三年九月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Mに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Mを欺いて情交關係を結び、次で大正二十三年十月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Nに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Nを欺いて情交關係を結び、次で大正二十三年十一月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Oに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Oを欺いて情交關係を結び、次で大正二十三年十二月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Pに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Pを欺いて情交關係を結び、次で大正二十四年一月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Qに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Qを欺いて情交關係を結び、次で大正二十四年二月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Rに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Rを欺いて情交關係を結び、次で大正二十四年三月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Sに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Sを欺いて情交關係を結び、次で大正二十四年四月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Tに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Tを欺いて情交關係を結び、次で大正二十四年五月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Uに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Uを欺いて情交關係を結び、次で大正二十四年六月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Vに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Vを欺いて情交關係を結び、次で大正二十四年七月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Wに對し、自分は日露戰役に從軍し、金鵄勳章を授與されたる陸軍中尉の某であると詐稱し、Wを欺いて情交關係を結び、次で大正二十四年八月頃、大阪市内の某旅館に投宿中、同旅館の女中Xに對し、自分は日露戰役に從軍し